

宮崎大学におけるがん看護専門看護師教育課程の紹介

An Outline of Curriculum for Certified Nurse Specialist (Cancer Nursing) in Graduate School of Medicine, UNIVERSITY OF MIYAZAKI.

土屋八千代・奥 祥子・田村眞由美

Yachiyo Tsuchiya・Shoko Oku・Mayumi Tamura

キーワード：がん看護専門看護師，教育課程概要，がんプロフェッショナル養成プラン

Key words : Certified Nurse Specialist (Cancer Nursing)
outline of curriculum for cancer nursing
cancer professional training plan

1. はじめに

わが国の死亡要因第一位である“がん”に対する施策として、「がん対策基本法（平成19年4月）」や「がん対策基本推進計画（同年6月）」の制定・施行に伴い，文部科学省は大学改革推進事業として「がんプロフェッショナル養成プラン」を創設し，がん治療に対応する専門職の育成を推進することになった。九州地区では本プランが九州大学を拠点として推進されることになり，宮崎大学医学部もそれらの作業を進めることが決定された。

宮崎大学附属病院はがん拠点病院としての役割を有しており，必然的に教育機関として大学は地域におけるがん医療・看護の充実推進など地域貢献の役割を担う。当大学は「世界を視野に，地域から始めよう」のスローガンのもと，社会の要請に応え，「人間性の育成」「社会性・国際性の教育」「専門性の教育」の目標を掲げ教育・研究活動を実践している。医学部は，地域における医学・医療の中心的役割を果たすと同時に，「人命尊重」を第一義とし，医の倫理に徹した医療の専門職

（実践者・研究者）を育成し，国内外の医学・看護学の水準向上と社会福祉に貢献することを使命としている。この理念に基づき，修士課程看護学専攻は「生命の尊厳を基盤とし，生活者のQOLの向上のために，批判的思考や高度な問題解決能力を持ち，看護の方法を探究・実践・開発できる」人材育成を趣旨とし，平成17年度より①問題解決能力を有する看護実践者の育成，②看護学の教育者・研究者としての基礎づくり，を教育目標として教育活動を行ってきた。しかし，高度な実践能力を有する看護実践者の育成については十分とはいえない状況であった。

以上の状況を踏まえて，「がんプロフェッショナル養成プラン」の趣旨のもと看護学科では修士課程に専門看護コースを新設，がん看護専門看護師（日本看護系大学協議会の認可を受けた教育課程での人材育成，以下本課程と略）を養成することにした。本課程では，地域及び施設におけるがんの予防・治療から緩和ケアまでの全過程において，がん看護のスペシャリストとして必要な看護

実践能力，がん医療チームにおける教育，相談，調整，倫理的調整等及びがん看護に関する専門的知識・技術の探究・開発のできる，人間性豊かな人材を育成し，対象となるがん患者や家族，医療機関及び地域でのケア提供者への貢献を目指すことを目的としている。看護学専攻専門看護コース(がん看護)の位置づけは以下ようになる。

表1. 宮崎大学大学院医科学看護学研究科修士課程

コース	分野	教育・研究領域 (担当部署)
修士論文コース	基礎看護学	システム看護学 (基礎看護学) 地域精神看護学 (地域看護学・精神看護学)
	実践看護学	ストレス対処看護学 (成人看護学・老年看護学) 母子健康看護学 (母性看護学・小児看護学)
専門看護コース	がん看護	がん看護学 (成人看護学)

2. 本課程の概要

本課程は，日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程基準(がん看護)に指定された6つの教育目標を達成するために，以下の目標を設定した。

1) 教育目標

①がんに関する専門的知識を深め，対象のニーズに対応した的確な判断と高度な技術で看護を実践することができる。②がん患者を取り巻く医療提供システム内の調整，医療従事者への教育・相談活動ができる。③がん患者・家族の人権擁護の

ために，倫理的判断の原則を理解し，適切な倫理的判断に基づいた実践ができる。④社会に対して，がんの予防及び早期発見のための教育・相談及び啓発活動ができる。⑤がん看護に関する専門的な知識や技術を深めるための研究活動を実施できる。

2) 教育課程概要

専門看護師教育課程審査基準に照らし，資格申請に必要な科目に加えて，専門看護師として必要な研究能力育成のための臨床看護学特別研究を設けている。修了要件は，①共通科目8単位：(必修科目：看護倫理実践論)，(選択科目：看護研究方法論，看護実践方法論，看護コンサルテーション論，看護教育実践論，看護管理実践論)。②専攻分野共通科目8単位：(必修科目：がん病態・治療学，がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護援助論)，専攻分野科目4単位：(必修科目：緩和ケア論，ターミナルケア論)，がん看護学実習6単位(がん看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)。③臨床看護学特別研究8単位(がん看護に関する専門性を追究し，がん患者の理解及び援助方の探究に関する研究，実習で受け持った患者への実際の援助を通して援助法の開発，がん看護専門看護師の役割と役割開発など，その成果を修士論文として作成する。)，以上計34単位以上である。以下，科目構成と概要及び履修モデルを示す。

表2. 専攻分野共通科目(8単位)と専攻分野専門科目(4単位)一覧

専攻分野共通科目	<p>1) がん病態・治療学 (2単位)：がんの予防，病態生理，診断・治療からがん看護を実践するために必要な専門的知識を深め，がん患者のQOLを基盤とした援助を探究できる能力を養う。</p> <p>2) がん看護学特論Ⅰ (2単位)：専門的ながん看護を実践していく上で基盤となる主要な理論や概念を理解し，その活用について探究する能力を養う。</p> <p>3) がん看護学特論Ⅱ (2単位)：がん患者(家族を含む)ががんとともに生きることを支援するために特論Ⅰで学んだ理論の実践への応用について，文献のクリティーク及び事例での展開を通して，実践での活用方法及び援助方法を探究する。</p> <p>4) がん看護援助論 (2単位)：がん患者(家族を含む)への意思決定に関する援助として，病名告知・予後・治療の選択などのインフォームド・コンセントとその援助について探究する。また，がん患者のサバイバーシップへの援助として，治療・処置に伴う心身の苦痛への援助，症状緩和についてのアセスメントと援助方法について探究する。</p>
専門科目	<p>(1) 緩和ケア論 (2単位)：がんと診断された直後から長期的に安定した生存の時期にあるがん患者および家族の全人的な苦痛を理解し，苦痛緩和のためのアセスメント及び援助方法を事例を通して探究し，専門的ケアへ応用できる能力を養う。</p> <p>(2) ターミナルケア論 (2単位)：死の直前までがんとともに生きる人およびその家族を全人的に理解し，その人らしい終焉が迎えられるような看護援助方法を，家族も含めたケアとして考察し，特定症状における看護介入モデルを探究する能力を養う。</p>

表3. がん看護学実習（6 単位以上）一覧

目的	<p>①複雑で対応困難な問題を有するがん患者および家族に対して、専門的な知識と技術を用いた看護を実践できる。</p> <p>②看護師をはじめとするケア提供者に対するコンサルテーション、看護職者に対する教育や保健・医療・福祉に携わる職者間のコーディネーションが実施できる。</p> <p>③がん患者および家族の倫理的な問題や葛藤について、人権を擁護するための適切な倫理的判断を行い、判断にもとづいた態度と行動をとることができる。</p> <p>④総合的な判断力と組織的な問題解決能力を持って専門領域における新しい課題にチャレンジし、教育や政策への課題にも反映できる役割開発ができることをめざす。</p> <p>⑤がん看護の専門的知識・技術の向上や開発を目指す実践における研究活動を行う能力開発を行う。</p>
実習の構成	<p>(1)がん看護学実習Ⅰ（1年後期1単位相当）：がん看護専門看護師としての基礎的な実習（複雑な場面で対応困難な問題を持つがん患者及びその家族に対するがん看護専門看護師としての能力の基礎を修得する。特に高度な実践、倫理的な調整、コンサルテーションのニーズ把握）</p> <p>(2)がん看護学実習Ⅱ（2年前期2単位相当）：がん看護専門看護師の役割開発に関する実習（がん看護専門看護師と共に行動し、がん看護専門看護師の役割としての実践、教育、相談、研究、倫理的調整に参加することにより、がん患者及びその家族、社会、医療・看護職者、医療提供システムに対して、高度な看護実践能力を持ち看護活動を創意工夫して変革・改善し、社会を組織的に発展させるような能力を修得する。）</p> <p>(3)がん看護学実習Ⅲ（2年前期3単位相当）：がん看護に関する専門的な実習（がん看護学実習Ⅰ・Ⅱをもとに、がん看護専門看護師として高度な知識と的確な臨床判断及び熟練した高度な技術を持ち、がん患者を取り巻く医療提供システム内の相談、調整、教育、研究、倫理的調整を自律して実践できる能力を修得する。主として、相談、調整、教育、研究に関する内容を実施する。さらに施設のニーズの中から優先度の高い順に学生が選択して実施する。）</p>

*『専門看護師』とは、複雑で対応困難な問題を有するがん患者および家族に対して、卓越した看護実践能力をもつ実践者、看護師をはじめとするケア提供者に対するコンサルテーションや看護職者に対する教育、実践の場における研究活動、保健・医療・福祉職者間のコーディネーション、倫理的課題の調整者としての機能を果たす者を言う。また総合的な判断力と組織的な問題解決能力を持って専門領域における新しい課題にチャレンジし、教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる者をいう。

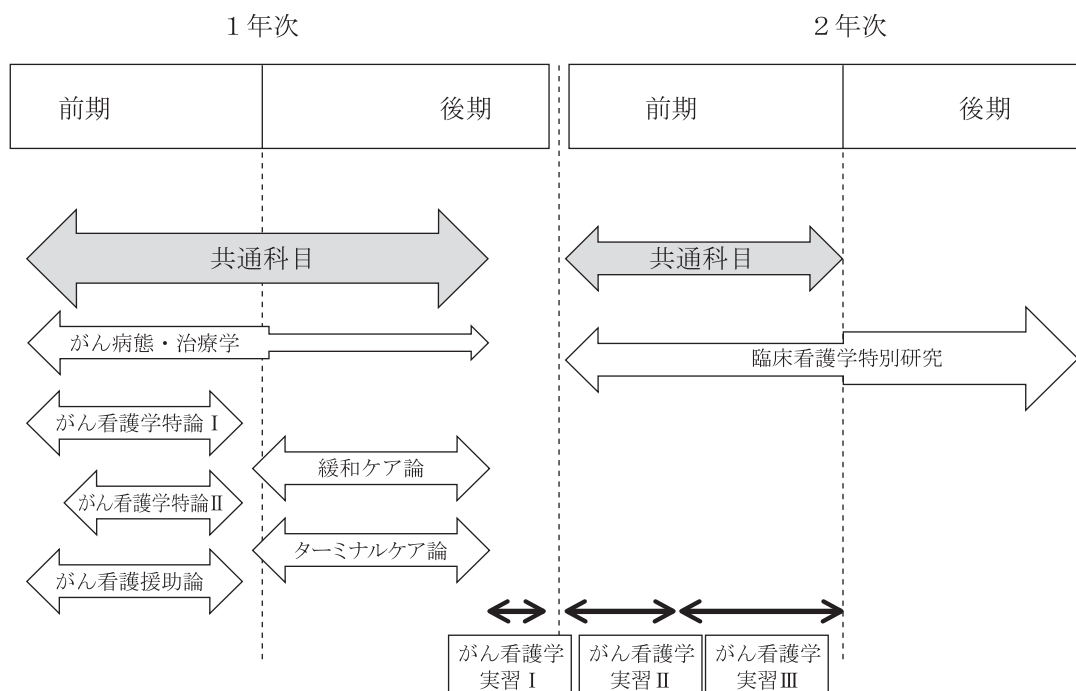


図1. がん看護専門看護師教育課程履修モデル

3) 入学・履修要件

入学要件は、臨床経験3年以上（がん看護の臨床経験2年以上が望ましいこと）及び学業に専念できる人とした。履修要件は、大学院に2年以上在学し、臨地実習を含む所定の単位（34単位以上）を修得し、かつ、指導を受けたうえで、臨床看護学特別研究論文の審査及び最終試験に合格することとした。

3. 教育課程の特徴

1) 医学部附属病院及び医学系大学院の資源が活用された教育課程

がん看護専門看護師教育課程は、共通科目として卓越した看護実践の基盤となる諸理論・概念や倫理的調整に必要な倫理的推論のスキルトレーニングを始め看護管理やコンサルテーションなど、実践的な知識や技術を教授する科目を配置している。宮崎大学医学系の研究科修士課程は、医科学専攻を設置しており授業科目として「医の倫理学」を始め、基礎・臨床・社会医学、スポーツ医学に関連する科目が配置されている。後年設置された看護学専攻において、医学部および医学系の大学院の資源活用の一環として、医科学専攻の授業科目から看護学専攻に有用な科目を選択し、看護学専攻の共通科目として位置づけ、履修可能としている。また、学生がサブスペシャリティを選定し、理論と実践の統合を図るためには、実習環境の整備が重要となるが、宮崎大学は生命科学の創造、特に学部を超えた融合型生命科学研究の創造を実践するコア組織の一つとして「フロンティア科学実験総合センター」を有し、生命科学研究の創造・支援・教育を実践していること、及び附属病院は最先端のがん医療を担う「がん診療連携拠点病院」であり、がん医療のみならずがんの研究・研修・教育機関として実績を残している。がん看護専攻分野科目群には、これらの附属病院の資源をフルに活用し、がん医療の動向や最新の診断・治療、緩和ケアに関する知識の教授のみならず、化学療法や放射線療法・手術療法などにおける治療と看護の実際や緩和ケアチームカンファレンスへの参加で、看護学生や看護職のみならず医

師や医学生との交流の機会も設けている。また、がんプロフェッショナル養成プランの一環として実施されているインテンシブコース「がんセミナー：全診療科のがんや治療に関する講義」に積極的に参加している。附属病院に専門看護師（がん看護）を非常勤講師として招聘、その際本課程の学生や教員がファシリテーターとしての役割を担っている。更に、本課程ではがん看護専門看護師による実習指導と評価やその後のメール等によるフォロー体制などが構築されつつある。

以上のように、本課程は広く医学部内外の資源を活用した科目設定と運用がなされており、学生は2年間の休職制度のもと学業に専念でき、施設・地域との連携も含めて、がん看護専門看護師としての基礎的能力を培っている。

2) 専門性の探究を目指した臨床看護学特別研究（8単位）の設定

本科目は教育目標である「がん看護に関する専門的な知識や技術を深めるための研究活動を実践できる」を達成するために設定している。共通科目および専攻分野共通科目・専門科目の知識を基盤として、がん看護に関連する専門性を探究し、がんサバイバーとしての患者や家族の理解を深め、援助法について国内外の文献検索とクリティク並びに臨地実習での実際の援助を通して、がん看護専門看護師としての役割と役割開発、援助技術の開発などについて探究するプロセスを経て、臨床看護学特別研究論文としてまとめる。

本科目は修士論文コースの看護学特別研究（10単位）に対応して設定してある。これは、当大学院の修士課程看護学専攻が掲げている①実践者の育成と②看護学の教育者・研究者としての基盤づくり、という教育目標を達成するために看護研究が重要な位置づけにあること、及び社会のニーズをふまえて専門看護師の教育内容の強化を図る方策として設定してある。これによりがん看護実践に関して批判的思考（Critical thinking）ができ、かつ研究的態度の育成が期待される。

3) 地域との連携の充実

県内の緩和ケア病棟を有する施設との連携がとれており、講師の招聘はもとより、学生が希望す

れば自由に施設訪問ができる体制となっている。また、宮崎県内の看護職者とともにがん看護について学びを深める目的で創設した「がん看護研究会」や、がんプロフェッショナル養成プランの一環としての「がん教育セミナー」を定期的開催し、県下の看護職の多数の参加と協力を得ている。これらの研究会やセミナーは本課程の学生がファシリテーターの役割を担う機会として活用している。また、大分大学医学部看護学科専門看護（がん看護）のコースとの連携のもと、一部合同授業の形態を採用し、学生間の交流を行い相互の学びを深めている。これらは、今後がん看護専門看護師として活躍するためのネットワークづくりの基礎として位置づくものである。

4. おわりに

平成21年度よりスタートした専門看護師教育課程（がん看護）も2年目を迎えた。第1回生のがん看護学実習も無事終了（特になん看護学実習Ⅱ（専門看護師役割実習）の受け入れ施設での実習も滞りなく終了）できたことに安堵しつつ、実習の教育評価を実施している。この間平成21年12月より、学長管理定員からがん看護に専任教員の増員が認められたことは、大学における本事業の位

置づけの評価と受けとめている。

平成22年7月に、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程審査委員会に申請書を提出し、平成22年12月29日付けで「可」の判定を受けた。今年度3月に第1回生2名が修了し、6ヶ月の実務後に日本看護協会への申請を経て専門看護師としての活動の基盤を得ることになる。まずは宮崎県下におけるがんに関わる看護職との連携を強化し、がん看護の質の充実に貢献できることが期待される。

多くの方々のご尽力により立ち上がった専門看護コースの教育の継続的質の向上を目指して、今後とも看護学科教員のみならず、県下の医療・看護職のご協力・ご助言を期待したい。

参考資料

- ・平成22年度版 日本看護系協議会 専門看護師教育課程基準 専門看護師教育課程審査要項
- ・平成22年度 専門看護コース（がん看護）教育課程要項
- ・土屋八千代，奥祥子，緒方昭子，他：がん看護研究会の発足とその経緯，南九州看護研究誌，8(1)，49-54，2010